

グリーンローン調達に関するお知らせ

当社は、本日、山梨県及び山梨大学と産官学一体で連携し推進する「水素燃料電池の主要部品である、ガス拡散層一体型金属セパレータ」の研究開発及び製造ラインの確立（以下、「本プロジェクト」）のための資金を、グリーンローンで調達いたしました。

水素に係る研究開発等を資金使途としたグリーンローンの調達は、国内では初めてであり、世界でも類を見ない取り組みとなる見込みです。

本調達にあたっては、国際資本市場協会（ICMA）が定める「グリーンボンド原則」、ローンマーケット協会（LMA）及びアジア太平洋地域ローンマーケット協会（APLMA）が定める「グリーンローン原則」に則り、「グリーンファイナンスフレームワーク^{※1}」を策定し、その適合性を担保するため、第三者機関である株式会社日本総合研究所より、「セカンドパーティ・オピニオン^{※2}」を取得いたしました。本フレームワークの策定にあたっては、株式会社三井住友銀行より支援を受けております。

本プロジェクトは、当社が山梨県・山梨大学と協働で「水素燃料電池の主要部品である、ガス拡散層一体型金属セパレータ」の研究開発、製造、実用化により、安価で高品質な水素燃料電池スタックの普及を目指すものです。

創業以来、半世紀にわたりものづくり一筋に取り組み、確立した当社の技術を土台に、新たな水素燃料電池スタック及びシステムを創出し、電源及び水素燃料電池自動車等への展開により、環境に配慮した水素社会の実現へ貢献してまいります。

- ※1 グリーンファイナンスとは、環境課題の解決に資する事業を行うための資金調達方法を指し、グリーンファイナンスフレームワークとは、グリーンローン及びグリーンボンドで資金調達するためのフレームワークで、①調達資金の使途、②プロジェクトの評価と選定のプロセス、③調達資金の管理、④レポーティングについて定めた枠組みを指します。
- ※2 セカンドパーティ・オピニオンとは、グリーンファイナンスフレームワークが、ICMAの定める「グリーンボンド原則」、並びにLMA及びAPLMAの定める「グリーンローン原則」に適合しているか確認し、提供される評価書を指します。

<本フレームワークの概要>

(1) 資金使途の概要と SDGs との関連性

資金使途：山梨県及び山梨大学と産官学一体で連携し推進する「水素燃料電池の主要部品である、ガス拡散層一体型金属セパレータ」の研究開発及び製造ラインの確立

| ゴール | SDGs と最も関連性の高いターゲットの概要 | 左記 SDGs ターゲットと関連する理由 |
|---|--|---|
|  <p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p> | <p>(7.1) 2030 年までに、安価かつ信頼できる現代的エネルギーサービスへの普遍的アクセスを確保する。</p> <p>(7.3) 2030 年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。</p> | <p>・改良型水素燃料電池の製造・研究開発・実用化による、安価かつ環境に配慮したエネルギーの普及</p> |
|  <p>9 産業と技術革新の 基盤をつくろう</p> | <p>(9.4) 2030 年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。全ての国々は各国の能力に応じた取組を行う。</p> | |
|  <p>13 気候変動に 具体的な対策を</p> | <p>(13.1) 全ての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性（レジリエンス）及び適応の能力を強化する。</p> <p>(13.2) 気候変動対策を国別の政策、戦略及び計画に盛り込む。</p> | |
|  <p>17 パートナシップで 目標を達成しよう</p> | <p>(17.17) さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。</p> | <p>・山梨県、山梨大学等と共に、産官学連携による水素燃料電池の研究開発の推進</p> <p>・政府（文科省）も本水素燃料電池の研究開発を支援</p> |

(2) プロジェクトの評価と選定のプロセス

・当社取締役会において、予算及び事業計画の承認を経て、適格なプロジェクトを選定・承認

(3) 調達資金の管理

・管理台帳により他の資金と区分し適切に管理

(4) レポーティング

・年に1度、アニュアルレポートにおいて開示予定

| 項目 | 開示予定内容 |
|----------|---|
| 調達資金の管理 | 毎年の充当額及び未充当額の残高 |
| アウトプット指標 | 研究開発、製造ラインの概要等 |
| アウトカム指標 | <ul style="list-style-type: none"> ・改良型水素燃料電池の普及による、再生可能エネルギーの利用可能量拡大（※） ・ガソリン車から、改良型水素燃料電池を搭載した自動車に置き換わる想定代替数、及びそれに伴う CO2 排出量の削減 ・改良型水素燃料電池における、従来比製造コスト低下割合 ・研究開発の進捗状況（発表した論文数、特許出願数、実用化に繋がった事例等） |
| インパクト指標 | <ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス排出量の抑制による地球温暖化対策への貢献 ・水素を新たなエネルギー源として活用する、水素社会への貢献 |

※ 改良型水素燃料電池は、現状と比較して安価かつ高効率であることが見込まれるため、定置型や自動車用途等で導入が拡大し、その結果、系統制約等に縛られず、再生可能エネルギーの発電ポテンシャルを最大限活用可能となる成果が期待できる。

具体的には、再生可能エネルギー由来の電力を用いて水を電気分解し、水素を生成・貯蔵したうえで、需要に応じて水素を燃料電池に投入し、酸素と反応して電力を得る。すなわち、燃料電池の普及拡大により、貯蔵可能な水素を介して、再生可能エネルギー由来の電力供給量を最大化することが可能となる。

以上

（本件に関する問合せ先）
株式会社エノモト 経営企画部 企画総務課
電話： 0554-62-5111
Eメール： ir@enomoto.co.jp